

松葉がにの令和元年度水揚状況等について

令和2年4月21日
水産課

令和元年度の松葉がにの水揚状況がまとまりましたので報告します。

1 令和元年度漁期のズワイガニ水揚結果

項目	松葉がに			親がに			若松葉がに			合計		
	数量 (トン)	金額 (百万円)	単価 (円/kg)	数量 (トン)	金額 (百万円)	単価 (円/kg)	数量 (トン)	金額 (百万円)	単価 (円/kg)	数量 (トン)	金額 (百万円)	単価 (円/kg)
R1年漁期	383	1,545	4,039	370	1,134	3,065	53	83	1,568	806	2,762	3,429
H30年漁期	297	1,175	3,953	556	1,096	1,972	46	102	2,203	899	2,373	2,639
対前年増減	86	370	86	Δ186	38	1,093	7	Δ19	Δ635	Δ93	389	790
前年比(%)	129	131	102	67	103	155	115	81	71	90	116	130

※合計の水揚金額は、統計のある昭和39年以降で過去最高となった。

2 五輝星の水揚結果

賀露市場での初競りで、一枚500万円で落札され、これまでの最高値の200万円を上回り、「競りで落札された最も高額なカニ」として、ギネス世界記録を更新した。

	合計枚数 (枚)	合計金額 (千円)	平均単価 (円/枚)	最高値 (千円/枚)	出現率 (%)
R1	117	10,645	90,979	5,000	0.015
H30	101	5,193	51,414	2,000	0.017
H29	45	1,370	30,444	80	0.009
H28	130	4,650	35,769	1,300	0.028
H27	174	4,847	27,857	700	0.035

3 松葉がにTAC管理への対応状況

TAC(漁獲可能量)は前漁期同様870トンだったが、漁期当初から自主規制を強化したため(下表参照)、漁期終了まで安定供給し、観光業等に影響は無かった。最終的なTAC消化率は92.6%となった。

<漁業者の自主規制の強化状況>

項目	自主規制の内容
松葉がに	甲幅規制を引き上げ(9.5→10.5cm)、指3本以上ないものの水揚げを不可とした。
親がに	1航海当たりの漁獲上限枚数を削減(Δ25~30%)した。
若松葉	開始日を変更(1月20日→2月1日)し、漁期を短縮(Δ12日)した。 1航海当たりの漁獲上限枚数を削減(Δ50~61.5%)した。
公休日	回数を増加(24時間×3回→4回とし、11月18日に更に追加して5回に変更)した。

<県の対応状況>

資料提供	11月7日に初競り、15日に解禁後1週間の水揚状況、11月末、12月末、1月末、2月末及び漁期末の水揚状況をマスコミに資料提供した。
関係者情報提供	日々の漁獲量、漁獲金額及びTAC消化率のモニタリングを開始し、関係漁協、支所及び水産庁境港漁業調整事務所に情報提供した。毎週金曜日に鳥取県観光連盟に漁獲量及びTAC消化率を情報提供した。

4 新型コロナウイルス感染症の影響

2月以降、旅館・外食向けの需要が減り、松葉がにの単価が下がったものの、漁期終期で水揚量も少ない時期であったため、影響は少なかった。

5 ズワイガニの資源状況(日本海区水産研究所)

令和2年以降は資源が減少する見込みである。ただし、資源量の再評価により数字が変わることもある(昨年も上方修正された)。

6 次期漁期に向けての対応

ズワイガニ資源の維持、増加を図るため、TACの配分次第では現行の自主規制措置の継続や更なる強化について検討する。

本県へのTAC内示は、10月に示される見込みであり、その後、資源管理方策を決定する。なお、観光業者等には、検討状況等を含め、引き続き丁寧に情報提供を行う。